



これで、 あなたも祇園祭の全てが分かる、かも！ 祇園祭 徹底解剖！

文／袖岡 保之（本誌）

神輿町に縁があり、京都の町ではしやぎまわってきた本誌・袖岡が、知っている範囲と、「あれ何したはんやろ」と、わからん（祇園祭に関わっている人は多すぎて、というが、よその町でやっていることは、よくわかりませんのや！）ことをわからんなりに、おぼあはんやご近所さんに訊いて「はは〜ん」と思ったことを「ま」とめてみました。

ま、何にせよ、どないしたかて京都の人は祇園祭が大好きです。特に祇園の氏子團の町衆（「ちようしゅう」と言いますね）は、そうです。また、そのころの京都が好きなおそさんも、みくんな祇園祭が大好きですね。

饅が好きな人も、鯖寿司棒で食べる人も、駄焼いたら10は「とっは」……と言います。食へる人も、みんなみんな祇園祭が大好きのようにです。

時代祭も、葵祭もええお祭りです。しかし、御霊会（※注）は、何といつても祇園祭です。祇園祭を楽しむことは、無病息災、疫病退散にして豊かな生きる知恵を皆で共有する術であります。だからこそ、京都は町であるのです。なんてえらそうなことを言っています、やはり浴衣を着た彼女とくんちくたししながら、交通規制された四条道を歩くのは気分がいいし、たまにしか見られない、町家の中や町衆の持っている素晴らしい伝統工芸などを見せてもらえらるし、無言参り（P. 30参照）の舞妓はんはやっぱりカワイイし……

京の町衆の祭りⅡ 祇園祭

京都の人がワクワクして楽しみにしている祭……といえは、何と言つても祇園祭ということになります。何せ、葵祭も、時代祭も市民参加型……ではありませんが、祇園祭は氏子Ⅱ町衆の祭りです。言つてはナンですが、民間の祭りであつて、政とちよつと趣が違ふ……ということなのです。現在、全国に山車や、地車、そして神輿がありますが、そんな町衆の祭は、荒ぶる神への畏怖、そして疫病退散、無病息災という町衆の願いを祭りという形で表現していく、都市型の祭りは、すべて祇園祭がその原型といつていいでしょう。田植え祭りや豊作祭りとは、ちよつと（いやだいが心）手色が違ふ……ということも、こんと来ていただければ嬉しいですよ。

それでは、祇園祭の始まり、始まり……

そもそも、 祇園祭のスタートって？

それでは、祇園祭がどういふ風になつた形になつていったか？を、ちよつと見てみましょう。祇園祭は平安時代に生まれた祭です。貞観11年(869)、大飢饉が京の都を襲います。これは、牛頭天王(インドの神様)の祟りである。(今では素戔嗚尊と垂迹しています)と、当時の国の数である66カ国に合せて、66本の鉦を立てて、祇園社から神泉苑へ運び、その泉に流したのが始まりと言われています。

ここでいう鉦は、今の鉦とは違い6メートルほどの棒状で先が諸刃の剣になつた、まさに鉦です。これは京都の各神社の祭り(藤森神社、粟田神社、滝尾神社、西院春日神社)で、神輿とともに見ることが今でも出来ます。

応仁の乱(京都の人が言う「二の間の戦争」ですな...)で中止したけれど...で町衆の力で、バージョンアップして復興した、祇園祭。

祇園祭は、応仁の乱で中止になってしまいました。トホホ...が、しかし、祇園祭は町衆の力で1500年に復興されました。

毎年賑やかになつていく鉦の巡行に対して、1533年、時の権力者が鉦を動かしてはいけないというお達しを出しました。ところが「神事これなきとも、山鉦を渡したし」と、自分たちの力町衆の力で鉦を出し始めます。これまで祇園御霊会(こりようえ)と呼ばれていた祭事が、祇園祭として町衆の祭りという側面を持ち始めるのが、この時です。鉦が巡行できないように、道に締め縄を張って境界をつくつたようですが、それを切つて鉦は進んでいった。そう、そんな出来事の名残が、四条麩屋町の角で、長刀鉦

の稚児が締め縄を切ることで鉦の巡行の始まり...なのです。

祇園祭はふたつある？ 意外に知らない、祇園祭の全容。

先ほど「神事これなき」と申しましたが、それ以来、祇園祭はふたつの側面を持つようになり発展してきます。いわゆる山鉦町における町衆の山鉦巡行の祭。そして八坂神社の主宰されている神が町を練り巡る：神輿の祭です。このふたつが組み合わさって7月1日の吉符入から31日の夏越祓(なごしのはらい)まで1カ月間続きます。

7月17日の朝から行われる山鉦巡行。そしてその前々日の宵々山、前日の宵山が有名ですが、17日の夜に八坂神社から出る神輿の巡行もまた祇園町衆の豪快な「粋」な魅力にあふれています。

祇園祭にみる、 京都の町衆のしきたり...

祇園祭は7月1日の吉符入から31日の夏越祓までと書きましたが、その間、山鉦町も祇園町の方もキユウリを食べません。それはなぜかという、キユウリを輪切りにすると、その切り口が八坂神社の神紋に似ている...ということなのです。家に家紋があるように、神社にも神紋があります。で、それと似ている...という理由で、京都の町衆、祇園祭に関わる私たちはキユウリを食べません。それだけ祭りにも、八坂神社にも、崇敬の念をもっているということなのです。そんな祇園祭の楽しみを、どんどん紹介していきます。

山鉦の巡行

その昔(といつても最近までですが

...)、市電路面電車が四条通を走っていました。ですから電車が走るための架線が通りに架かっていました。で、祭りのときそれはじゃまです。どうするか？切つてしまふんです。そして鉦が通りすぎると後ろからクレーン車が来て架線を張っていく。それくらい祭りへの思いが強いというか...今は路面電車は走っていませんが、それでも四条通りを鉦が巡行するの、なんといつても信号が邪魔になります。信号機は切つてしまふわけにはいきません。で、どうなっているのか？折りたたみ式になっているのです。それくらい京の町、町衆の思いは、祇園祭に結びついているのです。

市長の役目...

そんな山鉦巡行の見どころの一つに、「くじ改め」というのがあります。四条堀町で、鉦が順番通りに来ているかを確認するのですが、誰が改めるのか？それは、神職ではなく市長なんです。先頭は長刀鉦と決まっておりますが、くじどり(巡行の順番を決める)も市役所で7月2日に市長がします。それは山鉦巡行が町衆の祭りであるということの表れであります。

御旅所

そして、くじを改めて山鉦が巡行していくわけですが、是非観ていただきたいのが、御旅所を過ぎるところです。この御旅所は祇園の八坂神社から神様が出張に来られているところで、町のあちらこちらから疫神を山鉦に集めてきて、この御旅所に閉じこめると、この御旅所で牛頭天王が疫神をやつつける...というわけです。

ですのでその御旅所までは「お渡り」といって、ゆつくりとしたお囃子で進みます。

疫神を御旅所に封じ込めた後は戻り囃子といひまして、速いお囃子に変わります。こういふことも知っておくと、祇園祭の見方がまた少し変わるのではないのでしょうか？

辻回し

これもまた、山鉦巡行のクライマックスの一つです。山も鉦も車輪が付いていますが、車輪は固定されていますので、方向転換するには、道路に竹を敷いて、水を打って、滑らせて方向転換しなければなりません。京の大辻、四条河原町での辻回しは、各山鉦の所作の違いや気合など、大変見どころの多いところです。

揺れる鉦...

山鉦には釘は一本も使われていません。その大きな体軀を支えるのは麦縄です。しかし、その麦縄がスプリングとなり(見ていると揺れてちよつと、というかなかり？恐ろしい感じがしますが...)壊れないし、コケないのです。これも昔ながらの智慧のひとつなのです。

神幸祭、還幸祭

山鉦の巡行終わった後、夕方になります。祇園社から御神輿が出てきます。祇園町から大宮辺りまで神輿は動くのですが、これが面白いというか一切、山鉦町を通らないのです。山鉦と神輿でそれぞれ氏子町が違うし、先述のとおり、これが「祇園祭のふたつの側面」であります。17日に神幸祭として八坂神社を出た神輿は、御旅所として1週間鎮座し、24日にまた氏子町、祇園町を巡って神社へ戻るので。

蘇民将来之子孫也 (そみんしょうらいのしそんなり)

八坂神社御祭神、スサノヲノミコト(素戔嗚尊)が南海に旅をされた時、一夜の宿を請うたスサノヲノミコトを、蘇民将来は粟で作った食事で厚くもてなしました。蘇民将来の真心を喜ばれたスサノヲノミコトは、疫病流行の際「蘇民将来之子孫也」と記した護符を持つ者は、疫病より免れしめると約束されました。その故事にちなみ、祇園祭では、「蘇民将来之子孫也」の護符を身につけて祭りに奉仕します。また7月31日には、蘇民将来をお祀りする、八坂神社境内「疫神社」において「夏越祓」が行われ、「茅之輪守」(蘇民将来之子孫也)護符と「粟餅」を社前で授けたいします。このお祭をもつて1カ月間の祇園祭も幕を閉じます。

※注 御霊会

祇園祭は、古くは祇園御霊会(こりようえ)と呼ばれ、貞観11年(869)に京の都をはじめ日本各地に疫病が流行したとき、平安京の広大な庭園であった神泉苑に、当時の国の数66カ国にちなんで66本の鉦を立て、祇園の神を祭り、さらに神輿をもつて災厄の除去を祈つたことにはじまります。

7/13

9:00 高橋町社参

「斎竹建」を行なう高橋町役員が、神事の無事斎行を祈願します。

11:00 稚児社参

長刀鉾稚児が立烏帽子水干姿で従者を従え、騎馬にて八坂神社に詣で、俗に言う「お位」をもらう神事が行われます。以後稚児は17日の巡行まで身を慎み、巡行時は長刀鉾正面に乗り、太平の舞を舞います。

14:00 久世稚児社参

久世稚児（駒形稚児）の社参が行われます。久世稚児は17日の神幸祭、24日還幸祭に供します。

7/15

夜明 斎竹建

夜明けまでに「斎竹」を四条麩屋町に建てます。長刀鉾稚児が山鉾巡行当日、太刀にてこの斎竹にはられた注連縄を切り、山鉾巡行がはじまります。

15:00 伝統芸能奉納

祇園祭に各種伝統芸能を奉納します。

20:00 宵宮祭

境内の灯をすべて消し、浄間の内に、舞殿に奉安する三基の神輿に神霊をうつします。

7/16

9:00 豊園社御真神建

17日の神幸行列の供をする、御真神を建てます。

10:00 神剣拝戴

15日18:00、長刀鉾の長刀を大政所御旅所に移し、10:00～の祭典後、厄除祈願のため一般の人々が拝戴することができます。

19:00 石見神楽

八坂神社御祭神、ササノヲノミコト（素戔鳴尊）の大蛇退治の舞を京都島根県人会島根奉賛会が行ないます。

7/14

7/16

夕刻より宵山

各山鉾町では山鉾を飾り、祇園囃子を奏で、各家においても家宝、屏風等を美しく飾ります。これを、屏風祭といいます。

7/16

夕刻より宵宮神賑奉納

石段下四条通において、各種芸能奉納行事が行われます。

23:00 日和神楽

翌日の巡行の晴天を祈念するため、山鉾町から四条御旅所の間を、囃子を奏でながら往復します。長刀鉾町は八坂神社にて囃子を奉納します。

祇園祭徹底解剖！**祇園祭
カレンダー**

祇園祭は、7月1日の「吉符入り」にはじまり、31日の境内摂社「疫神社夏越祓」で幕を閉じるまで、1カ月間にわたって各種の神事・行事がくり広げられます。祇園祭の行事は、「山鉾巡行」「神輿渡御」「奉納行事」など見るべき感じるべきものがいっぱい。そんな行事は、17日（前祭）と24日（後祭）を中心に繰り広げられます。しっかりチェックして！君も、祇園祭り博士！といこう！

7/1

吉符入

この日から祇園祭はスタートです。AM10:00、長刀鉾町では、町内一同稚児とともに八坂神社へ参拝。神事の無事を祈ります。

7/2

10:00 くじ取式

17日の山鉾巡行の順位を決めるため、各山鉾町代表者が集まり、京都市長立会のもとくじをとります。それはなんと、京都市役所で行われます。

山鉾町社参

11:30、くじ取式が終わりますと、各山鉾町代表者が八坂神社に参拝。祭りの無事を神前に祈ります。

7/10

10:00 幣切

長刀鉾町の神事に必要な各種御幣を八坂神社職員の奉仕にて行ないます。御幣が整ったら、鉾の組立てにかかります。

16:30 お迎提灯

神輿洗の神輿を迎えるため、万灯会有志がそれぞれの提灯を立て行列を整え巡行します。

八坂神社→河原町四条→市役所→寺町通→東大路通→神幸道→八坂神社

18:00 神輿洗

神輿三基を舞殿に据え、その内一基（中御座）を担ぎ、列の前後を松明で照らし、鴨川四条大橋の上まで行き、神輿を清める儀式を行ないます。20:30頃八坂神社に戻り、17日の神輿渡御にそなえ三基の神輿を飾り付けを行います。

KBS京都 × 京都 CF メディアMIX コラボレート企画

谷口夜口 Taniyuchi's Night

誌上

KBS京都 毎週土曜日
夜11時30分 絶賛放映中

こんばんにゃ〜！谷口キヨコです。
7月といえばもう夏分は直ですよね！
肌の露出も多くなるし、自慢の美脚
が光る季節やわ〜。「谷夜」のHPで
は『タニヨルファッションショー』の
コーナーで私の衣装が見れちゃう
ねん！最近師匠もよく褒めてくれる
もんね。みんな是非是非チェック
して欲しいな〜！その他にも毎回の
「谷夜」を紹介してるから、放送を
見逃した人はHPへ！でも、やっぱり
私と師匠との暴走トークを見て
欲しいから放送も見てね〜!!



谷口キヨコ



金太郎

谷口は欲張りやなあ。けどほんまに放
送してもらわな「谷夜」のおもしろさはわ
からへんわ。最近、谷口のトークはますます
ヒートアップしてるからな〜、俺の入る隙
を探すがいつも大変やねん！そのへんの
間合いをチェックするのもおもしろいと思
うで！HPの『ファッションショー』コーナ
ーで見れない特別VTRがあることも…。
放送もHPも要チェックや！

テーマでセレクトな京都の情報番組
こんなん放送してます!

消しゴム博物館

専業主婦兼、消しゴムコレクターの岡村さん
が始めた博物館。食べ物や動物の他に、ジャン
ボ消しゴム、粉石けん消しゴム、中身のア
ンコの粒まで表現されたタイ焼き消しゴム
など、ユーモアあふれる作品が3000種類以
上も展示されている。子供から大人まで楽し
めるこの博物館で、岡村さんの消しゴム愛に
触れてみては?



レスリング界の3兄弟

滋賀県にある日野クラブに所属する園田3
兄弟。高校1年生の長男・巧哉、中学1年生の
次男・新君、小学6年生の三男・平君はそれぞ
れレスリングの全国大会で優勝をおさめて
いる。ディレクターが三男 平君と対戦する
もあっさりと敗北。かつて家業を継ぐために
オリンピック出場をあきらめた父・康さんの
夢を継ぐべく、3人は日々練習に励む。園
田3兄弟の今後の活躍に期待したい。



幻のハモ

数千万円に匹敵する価値はないかといわ
れている「金色のハモ」を探し求め、いざ鎌倉
へ！この道27年の漁師・森 茂さんの船に乗
せていただき表の海へ進むディレクター。
漁は約10時間にも及んだ。遠慮な口は聴
くが一転、金色のハモにお目にかかるこ
とは出来なかった。しかし腹ののった船上
のハモをスタジオに持ち帰ると、「よーやっ」と
と谷口からお褒めの言葉が。



番組のHPへアクセスしてご意見、ご感想、応援
メッセージなど、どんどんメールしてください!

パソコン <http://www.kbs-kyoto.co.jp/taniyoru/>
ケータイ <http://www.kbs-kyoto.co.jp/taniyoru/mobile/>

7/17

9:00 山鉾巡行

長刀鉾を先頭に、前祭の鉾9基、山14基、後祭の山9基が各町を出て、
四条烏丸に集結。祇園囃子も賑やかに、所定のコースを巡行します。

9:00 くじ改め

くじ取式で決定した巡行順位に従い、大紋烏帽子姿の奉行
(京都市長)が順位を正す儀式です。

18:00 神輿渡御出発式

神輿渡御出発にあたり、石段下にて三社神輿の差し上げが行なわれ、その後三基
の神輿が氏子区域内をそれぞれ所定のコースに従い巡行。また古例により久世稚
児が中御座に供奉。宮本組の御神宝の供奉があります。21:00ごろより相次いで
四条御旅所に神輿が入っていきます。以降24日まで御旅所に留まります。

7/20

15:00 宣状式

24日花傘巡行に奉仕の馬長稚児、児武者の宣状が交付されます。

7/23 斎竹建

三条御供社において後の祭りの神事斎行を控え、「オハケ」を建てま
す。「オハケ」は石鳥居に向かって右側に、幅7尺奥行2尺に芝を敷き、
中心に3本の御幣を立て、四隅に斎竹を立てたものです。

16:00 琵琶奉納

琵琶協会の人々により、琵琶の奉納が行われます。

7/24

10:00 花傘巡行

傘鉾10余基、馬長稚児、児武者等が列を整えて所定のコースを巡行。
八坂神社到着後(12:00頃)舞踊等の奉納を行ないます。祇園祭花傘連合
会石段下一市役所前一八坂神社。

13:00 御真神御祭

夕刻より行われる神輿還幸祭の、宮本組神宝奉持列、
中御座をお迎えます。



17:00 還幸祭

17:00、四条御旅所を三基の神輿が出発。それぞれ所定のコースを経て三条御供
社に至り、祭典を行ないます。21:00から22:00頃八坂神社に還幸。神霊を神輿よ
り本社に還し、祭典を行ないます。

7/25

13:00 狂言奉納

茂山忠三郎社中の人々により狂言が奉納されます。

7/28

20:00 神輿洗

18:00、「奉告祭」終了後、神輿三基の内一基(中御座)を担ぎ、列の前後
を松明で照らし、鴨川四条大橋の上まで行き、神輿を清める儀式を行な
います。20:30頃八坂神社に戻り、神輿庫に収めます。

7/29

16:00 神事済

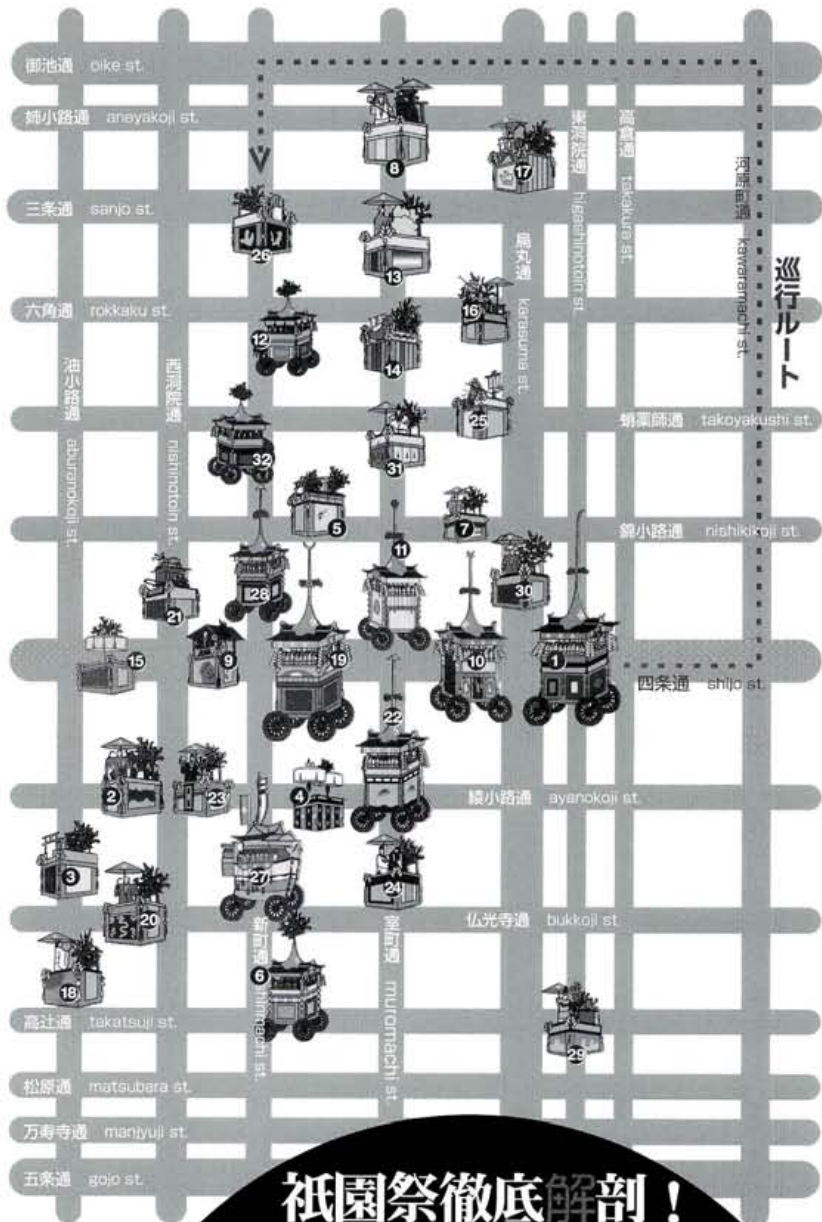
奉告祭 祇園祭終了を奉告し、神恩を感謝します。

7/31

10:00 疫神社・夏越祭

蘇民将来を祭る「疫神社」の鳥居に大茅輪を掛け、参拝者はこれをくぐって厄気を
祓い、又「蘇民将来之子孫也」の護符を授かります。





祇園祭徹底解剖！ 山鉾の種類 & 巡行ルート

山鉾巡行はいわば祇園祭のメインイベント。疫病等の災厄をもたらす疫神を鎮めるため、依り代(よりしろ)である鉾や山が巡行します。鉦や笛、太鼓で囃すのは、荒ぶる疫神(怨霊)を鎮めるためで、神輿に祇園社(八坂神社)の神を迎えるのに先立って、都大路の清祓します。そして、それぞれの鉾や山には、こないわれや由来があって、御神体や意匠はそれぞれの由来にちなむものでした。

巡行に先だつ数日間(わたって)山鉾建ては行われますが、ほとんど家を一軒建ててくらの規模で、その様子は壮観。建立に際しては、釘やかすがいの類は一切使わず、つぎと縄のみで建てられます。建材(というが簡単に言うと各部品ですね)は、各山鉾町の会所の蔵などに保管されていて、「大工方」「手伝い方」「籠子方」「車方」「曳方」と、関わる人たちは分業制で山鉾に携わっているのです。

数基の曳き初めを経て巡行までの宵を飾り、粽やお守りなどを授与して、それぞれに御利益があります。現在、巡行している山鉾は32基で、その他に大火や戦禍で焼失したものなどがあり、休鉾と呼ばれるものも数基存在します。

役行者山

【えんのきょうじやま・室町通三条上ル】
鈴鹿山とともに、山鉾町の最北端に位置する。御神体は帽子・掛絡・経巻・錫杖を持って座す役行者を中心に、鬼形で赤熊をかぶり手に斧を持って左側に立つ一言主神と、手に台つきの輪宝を持って山の向って右側に立つ葛城神の三



郭巨山

【かつきやま・四条通新町西入ル】
中国の史話二十四孝に登場する孝子、郭巨が御神体となっている。御神体の郭巨と童子は寛政元年(1789)金勝亭九右衛門利恭の作といわれる。ほとんどの山が車輪をつけた後も、最後まで人力で担いでいた。



綾傘鉾

【あやがさほこ・綾小路通室町西入ル】
山鉾の非常に古い形態を残している傘鉾の一つで、祇園御霊会の面影を残す貴重な鉾。鉾ではあるが、曳鉾ではなく棒振りを伴う踊り鉾で、往時は棒振り囃子の行列として徒歩巡行していた。焼失や休止を経て、昭和54年に復興。



長刀鉾

【なぎなたほこ・四条通烏丸東入ル】
古来「くじとらず」といって、毎年巡行の先頭を飾る。全ての山鉾は、この長刀鉾が注連縄を切つて動かない限り巡行できない。生稚児(いきちご)が二人の禿(かむろ)と共に乗る。現在唯一の鉾。創建は嘉吉元年(1441)頃とも、それ以前とも。長刀の正面が八坂神社や御所に向かないよう組立ての際南向きに取り付けられる。



油天神山

【あぶらてんじんやま・油小路綾小路下ル】
公家の風早家邸宅があったことに由来する。風早町に祀られていた天神を勧請してつくられた山。油小路通にあるところから「油天神山」。天明の大火で消失したが、寛政7年(1795)に復興。宵山では学問成就のお守りなどを授与する。



霰天神山

【あられてんじんやま・錦小路通室町西入ル】
永正年間(1504~1520)京に大火があったが、霰が降り大火が消えた。その時に一寸二分(約3・6センチ)の天神像が降ってきたのを祀つたのが起源とされる。別名「錦天神山」「火除天神山」。



岩戸山

【いわとやま・新町通高辻上ル】
有名な神話、天岩戸開きをテーマにした山で、内部に天照大神・手力雄命の御神体を記している。山と名が付くが、鉾と同じ屋根や車をつけており、曳山と呼ばれるものの中で最初の山。南北両観音山と同じく北と南に分かれ、交代で山を出していたこともある。ミニチュアの標も授与している。



占出山

【うらでやま・錦小路通烏丸西入ル】
神功皇后が三韓征伐に際し、肥前国松浦郡玉島川で鮎を釣って戦勝の兆としたという「日本書紀」の説話をテーマにした山で、別名「鮎釣山」。神功皇后が安産の神として祀られ、山鉾巡行のくじ順が早いとその年はお産が軽いといわれる。



函谷鉾

【かんこほこ・四条通烏丸西入ル】
中国の戦国時代(前403~221)齊の孟嘗君が讒言にあり、秦の国を逃れて中国の古い関所、函谷関に着いた時、家来に鶏の鳴き声をまねさせたところ関門が開き難を逃れたという故事に因む。鉾では始めて稚児人形が作られ、一条忠香卿により「嘉多丸」と命名され、以後稚児人形を用いている。



菊水鉾

【きくすいほこ・室町通四条上ル】
鉾頭には金色の菊花、稚児人形は菊の葉の露を飲んで700年の長寿を保つたという説話を元にした謡曲「菊慈童」に因んでいる。町内に古くからある井戸のゆかりもあり、例年13日から16日にかけて表千家、裏千家、遠州流の3流派によって菊水鉾会が行われて



芦刈山

【あしかりやま・綾小路通西洞院西入ル】
貧しいため離別した妻が都へ出て母乳になり、やがて拾福になったが、別れた夫を思い出して難波へ行ってみると、夫はしがいない



いる。授与される際は御利益は不老長寿・商売繁盛。

北観音山

【きたかんのんやま・新町通六角下ル】



「上り観音山」とも呼ばれ、古くは兄弟のようにな由緒を持つ南観音山と交代で出していた。現在は前祭のしんがりである船鉾が出発した後、後祭の山鉾巡行の先頭をいく曳山である。御神体の観音像は楊柳観音座像と、合掌して金剛杵を捧げている尊駄天立像。

黒主山

【くろぬしやま・室町通三条下ル】



謡曲「志賀」にちなむものといわれ、御神体は歌人で六歌仙の一人、大伴黒主が桜花を仰ぎ眺める姿を表している。実は西行ではという説も。授与される際には前年に使用した桜花がついていて、悪事除けとして人気が高い。

鯉山

【こいやま・室町通六角下ル】



「登龍門」の語源となった、龍門の滝を登った鯉は龍になるという中国の故事。その「登龍門」をテーマにした山。故事に因んで立身出世のお守りも授与している。

四条傘鉾

【しじょうかさぼこ・四条通西洞院西入ル】



応仁の乱以前に起源をもつ古い鉾の姿を伝え、明治4年を最後に消滅したと思われたが昭和60年に傘鉾本体が再現、昭和63年に踊りと囃子が復元され巡行に参加。北区の今宮神社で行われる「やすらい祭」には同様の鉾が出て、子供が傘の下に入ると病を逃れるとされる。

浄妙山

【じょうみょうやま・六角通烏丸西入ル】



平家物語にある宇治川の合戦をテーマにした山。全てのかき山の中では最重量で、車輪

がつくまでは他より多いかき手が要った。宵山では勝守を授与する。

鈴鹿山

【すずかやま・烏丸通三条上ル】



全ての山鉾の中で最北に位置する。伊勢国鈴鹿山で道ゆく人々を苦しめた悪鬼を退治した鈴鹿権現「瀬織津姫尊」の話がテーマ。御神体人形は数少ない女性像の中でも特に美人像として女性に人気。

太子山

【たいしやま・油小路通仏光寺下ル】



聖徳太子が四天王寺建立にあたり、良材を求めて自ら山に入った際の逸話に基づく。応仁の乱以前から巡行していた古い山で、聖徳太子に因んで智恵のお守りなどが授与される。

月鉾

【つきぼこ・四条通室町西入ル】



真木の天王座には月読命と伝わる木像がつき、鉾頭に新月型（みかづき）をつけている。全ての山鉾の中でもっとも背が高く、もっとも重い。稚児人形の「於禿丸」は、明治45年五代目伊東久重の作で、前年までは生稚児が乗っていた。

木賊山

【とくさやま・仏光寺通西洞院西入ル】



世阿弥の作といわれる謡曲「木賊」が由来で、我が子を人にさらわれて一人信濃國原の里で木賊を刈る老翁をあらわした御神体である。迷子のお守りを授与している。

蟻螂山

【どうろうやま・西洞院通四条上ル】



応仁の乱以前に起源をもつ山であり、別名「かまきり山」。木造黒漆塗唐破風の御所車にからくり仕掛けのかまきりが乗る、山鉾の中で唯一のからくりを持つ一基。

鶏鉾

【にわとりぼこ・室町通四条下ル】



中国古来、養の時代に太平が続く、訴訟用の太鼓（諷鼓）に用がなくなり若が生え、鶏が宿ったという故事に因む。前懸けの見送りにはベルギーのブリュッセルで制作されたもので、重要文化財指定。

伯牙山

【はくがやま・綾小路通新町西入ル】



もとは「琴割り山（ことわりやま）」と呼ばれており、明治4年の改名に際し、中国周時代の琴の名手伯牙に因む。御神体の人形は手に斧を持ち、琴を破ろうとしている。

白楽天山

【はくらくてんやま・室町通綾小路下ル】



応仁の乱後のものと言われ、唐の詩人白居易と道林禪師との問答に因む。学業成就のお守りなどを授与しており、真松は山の中で一番高い。

橋弁慶山

【はしけんけいやま・蛸薬師通烏丸西入ル】



有名な謡曲「橋弁慶」に因む山で、五条の大橋で弁慶と牛若丸が戦う姿を表す。往時はくじとらずで後祭の先頭を巡行したが、明治5年以降は同じくくじとらずであるが、北観音山の次の二番目に巡行。弁慶像の手足に巻

かれた縄は「力縄」といい、心身創建の願いを込めてこの力縄も授与される。

八幡山

【はちまんやま・新町通三条下ル】



山町である三条町内に祀らる八幡宮を山の上に勧請して巡行する山。正面の朱塗の明神鳥居には八幡さんの使いといわれる雌雄の鳩二羽が向い合っている。鳩笛、夜泣き封じの鳩鈴が授与される。

船鉾

【ふねぼこ・新町通綾小路下ル】



懐妊中にもかかわらず、陣中で崩御した仲哀天皇に代わって出陣し、凱旋後に無事出産したという神功皇后に因む鉾。安産の守護としても霊験があり安産お守りの他、腹帯なども授与している。

放下鉾

【ほうかほこ・新町通四条上ル】



謡曲「放下僧」に因んだ鉾とされ、真木の天王座に放下僧の像を祀る。新進の気風があり、提灯に初めて電灯を使用したり、大正11年にはいち早く保存会を設立。他の山鉾の保存会設立の呼び水となった。

保昌山

【ほうしょうやま・東洞院通松原上ル】



武勇に秀で、和歌も堪能であった平井保昌に因む。応仁の乱以前にも記録が残る、由緒ある山。別名「花盗人山」。恋愛成就や盗難除けのお守りを授与している。

孟宗山

【もうそうやま・烏丸通四条上ル】



中国の孝子説話を集めた二十四孝の一人、病身の母を養う孟宗が、雪の竹藪から竹を掘り出して母に与えて喜ばせた逸話に因む山。「筍山」「笋山」とも。

山伏山

【やまぶしやま・室町通蛸薬師下ル】



御神体が山伏の姿であり、明治の神仏分離以前の姿が見られる。元治の大火で焼失し、一時再建を断念したお隣の菊水鉾が、焼失しなかった懸装品をこの山伏山に寄贈して以来、町同士が親密になって現在に至っている。火除け、雷除けの粽が授与される。

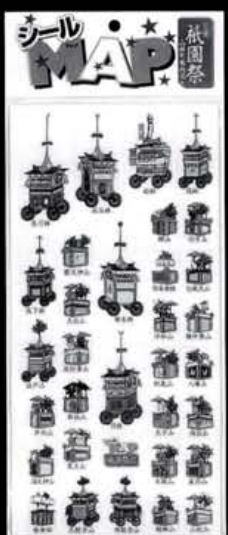
南観音山

【みなみかんのんやま・新町通蛸薬師下ル】



町名は百足屋町で、お金のことを「お足」と言ったことから商売繁盛を願うとも言われる。「下り観音山」とも呼ばれ、後祭の山鉾巡行のしんがり、つまり山鉾巡行のしんがりを務める曳山である。

山鉾シールをゲットせよ！



可愛らしいイラストになった山鉾は、「アルファ販売株式会社」という会社が製作・販売したもので、ちゃんと32基あって、それぞれ山鉾の特徴を残しつつ、上手い具合に簡略化されていて解りやすい。京都市観光協会の監修のもと制作されており、山鉾町の台紙マップが付属していて、見た山鉾の順に貼っていけば完成。てなギミックもある。

数年前に生産されて以来、6月と7月にファミリーマートの一角に並んだのだが、現在は出荷しておらず、市場に残ったものだけになる。既に卸会社に納めた後なので、どのくらい残っているかも不明とのこと。これは片っ端から探し回ってぜひとも手に入れたところ、新京極通の土産物店にも一部出荷されているようなので、そこらも覗いてみて欲しい。

神輿の三若、四若、錦ってなんだ？

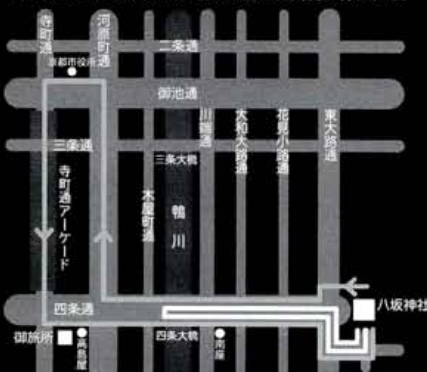
祇園祭りには三基の神輿が出て、それぞれに神様が輿られる。そして氏子町をまわる(2)わけなのだが、その神輿を担ぐのが、それぞれの氏子園の若衆なのである。若といっても、やはり神様を輿にのせて、ある程度の倫理観と責任感、そして体力もある。という条件の下、25歳〜40代までの青年、ということになる。

で、「三若」「四若」であるが、それは、三条通、四條通、錦通と覚えてもらって良いのです。それぞれ「中御座」「東御座」「西御座」を担ぎます。厳密にはなかなか難しいんであるが、ま、そういう範疇で担ぎ手と氏子のグループिंगがなされている、ということ。若といっている意味、神輿をかつく青年若衆という意味であって、どうして錦には若がつかないかといえは、ゴロが悪いから「若」ではなくて「錦」である、ということから京の「粋」なところでありませう。

ちなみに、御輿洗い(1)の時は、本来三若が担ぐ中御座を、四若の若衆が担ぎます。これもまた複雑なので、詳しい説明は割愛しますが、担ぎ手は錦や三若の連中も含めて、連合軍で担ぎます。神聖な祭りの非常に大事な神事でもありますから。四條通を松明で清め、飾りつけのない中御座の神輿を鴨川の神水で清めます。というか、この日はなぜか土砂降りの雨がやってきます。水で全てを清める。そんな荘厳な気分になるとともに、心身ともに疫病に打ち勝つという気になるから不思議なモノです。

1 神輿洗 (7月10日)

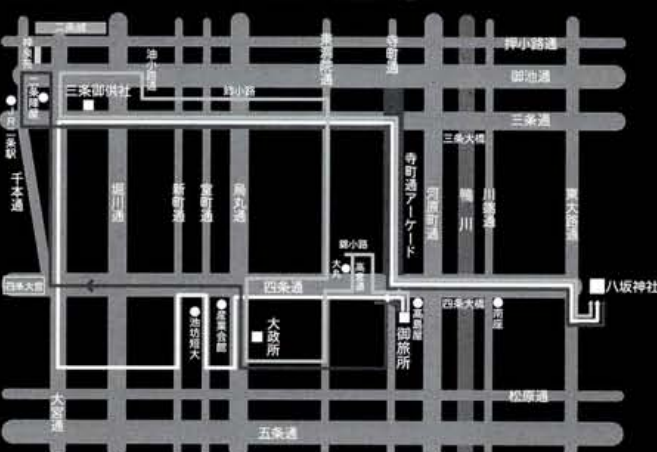
三基の神輿のうち、中御座神輿の鴨川の水で清める神事。その神輿を迎える提灯の行列が「お迎え提灯」。7月28日にも、神輿を蔵に納める前に神輿洗が行われる。



※ ——— = 御輿洗 ※ ——— = お迎え提灯

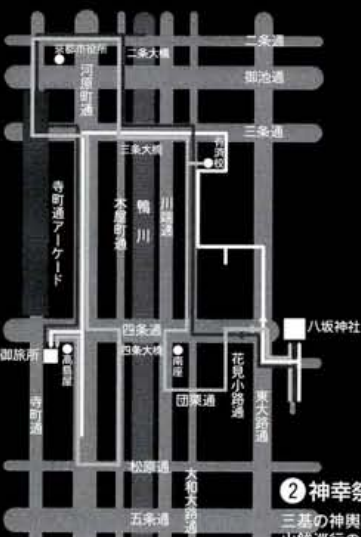
3 還幸祭 (7月24日)

御旅所に7日間とどまっていた三基の神輿が八坂神社に還る。



2 神幸祭 (7月17日)

三基の神輿が八坂神社から御旅所までを、それぞれのルートで進む。山鉾巡行の日の夕刻、18:00頃から「中御座」「東御座」「西御座」の順に出発。この三基とは別に東御座については子供神輿「東若御座」も出る。



※ ——— = 三若 (中御座)
※ ——— = 四若 (東御座)
※ ——— = 錦 (西御座)

祇園祭徹底解剖!

いつかはワタシも…、な平成レア鉾。

まだ寒さの残る3月17日。烏丸三条あたりで、聞き慣れたはずだが、少し「？」と思える音がする。これはなんだ？と覗くと、新風館に突立派な鉾が建っていて、祇園囃子の音がする。「祇園祭に先だって、新しい趣向か？」にしては早いな。

見ると「平成女鉾」とある。なるほど、お囃子が女性の声。おや？と思っただ違和感の原因はこれである。全員女性なのである。そもそもは94年、平安建都千二百年事業を機に「老若男女を問わず参加できる鉾をつくり、伝統と文化を花開かせ新しい歴史を開いていこう」という理念のもと、「平成女鉾をつくる会」という組織が、有識者の協力や財界の有志により発足したそう。山鉾町を基盤



<http://www.onnaboko.com/>

にせず運営されていて、2年後の'96年には、なんと実際に「平成女鉾」が完成(建立費約5千万円)。御神体には榊原姫命(クシナダヒメノミコト)を八坂神社から授かった、重量10t、高さ20mの、それは立派な姿なのである。同年に囃子方を募集、函谷鉾の囃子方の指導を受けた「平成女鉾音会(へいせいおんなほこさやねかい)」が今年で12年目を迎え、現在は実質的な鉾の運営を行っている。11歳の小学生から、70歳オーバーの方まで、全員女性。この秋には新たな囃子方の募集もあるらしい。こりやまさに「女もすなる、祭といふもの」…である。

山鉾町を基盤にしていけないというところは、誰もが関わることをできるということ。これについては賛否の分かれるところかもしれないが、「日本人たちもそれは百も承知で、祭が好きで好きでジツとして行わないんだもん」的な、町衆の正直な思いが伝わっている。山鉾巡行への参加はまだまだ果たせていないし、費用の問題もあって、次にいつ、どこでこの女鉾が建つかは未定なのだが(だからある意味レアなのである)、7月29日(日)には、八坂神社でお囃子を奉納するといふ。実際に観ると、いやなるとも艶やか。とにかくお囃子にしろ鉾そのものにして、とても立派なものである、とだけお伝えしておこう。

無言参り

無言参りは、祇園祭にともなう舞妓・芸妓の古くからの風習で、藤井大丸の東側の御旅所に神輿が三基鎮座する17日から24日の間、祇園甲部、宮川町の舞妓・芸妓が四條大橋を超えて、鴨川を渡り、願いを込め「無言」で、四條御旅所に七日七夜神輿前に詣でると願いが叶う(ええ旦那はんについてもうとつか、いやな旦那とはフォーエバーしたいとかですな…)という言い伝えが

あり、今なお舞妓はんで実践している方も多います。基本、ホンマものの舞妓はよほどの知り合いでないと、声を掛けても無視「無言」ですが…。なんせ四條河原町で舞妓が歩いていることに遭遇する、しかも二セではないのはこの「無言参り」の時だけではないでしょうか？ある意味、無言参りの舞妓に会えたら、「利益」…ありあり、かもであります。